

宇宙基本計画改定に向けての論点

関 華奈子（東京大学先端科学技術研究センター）

論点 1)

現行の宇宙基本計画第 1 章「(4) 月以遠の深宇宙を含めた宇宙探査活動の活発化」に関する記述は、以下のような項目建てになっている：

【宇宙物理学・惑星探査】、【地球低軌道】、【月面探査】

これまで含まれていなかった要素として、人類の活動域拡大や地球防衛の観点から拡張した宇宙科学（宇宙天気、プラネタリーディフェンス）の重要性が増している。【宇宙物理学・惑星探査】という項目建てを変更するか、別項目を立てるなどしてしっかり明記することが重要と思われる。

論点 2)

前回の基本計画改訂から国際的な Moon to Mars の動きを受けて、月と火星の探査における国際宇宙探査計画と宇宙科学との連携の重要性が明確化してきている。論点 1 と同じく宇宙基本計画第 1 章 (4) について、【月面探査】は【月・火星探査】などに変更し、「人類のフロンティアへ挑戦し、外交・安全保障等多様な政策目的にも資する比較的大規模の宇宙科学ミッションについては、国際宇宙探査と連携して実施する」ことが可能となる宇宙科学と探査のシナジー強化、宇宙戦略基金の開始などを受けた民間企業との連携促進などを含めた、中長期的ビジョンを盛り込むことが望ましい。

論点 3)

現行の宇宙基本計画の第 2 章(3) ii の「(a)宇宙科学・探査について」では、【宇宙物理学】【太陽系科学】の 2 つの項目建てで、将来像が整理されている。また、第 4 章(3)-(a)では【宇宙物理学】【太陽系科学】【重要技術の開発】の 3 項目で具体的アプローチが整理されている。これは JAXA から提出されたロードマップの宇宙理学、宇宙工学分野の 2 つに整理された新たなまとめ方と一見整合しない。新たなロードマップをもとに、宇宙基本計画の該当部分をどのように書きかえる必要があると考えているのか JAXA に方針をうかがいたい。ロードマップでの宇宙工学の輸送、探査、観測は整理の仕方としては、宇宙科学・探査に閉じない項目建てで、宇宙基本計画にははまりにくいので、理工融合で行う知の創造の項目建てとしては、現行のままで追記・改訂でよいのか、全面的に書き換える必要があるのかの検討が必要と思われる。また、上述の論点 1 で示したプラネタリーディフェンスなどの新たな分野についての記述をどこに追記するかも検討すべきである。

論点 4)

宇宙科学・探査に閉じる項目ではないが、宇宙基本計画 3 章に、全体を俯瞰した人材育成に関するスタンスを記述すべきではないか。第 4 章(4)-(c)に対応するスタンスが第 3 章に記載されていることが重要と思われる。